

学校・家庭・地域連携協力推進事業への大学生参画の促進について

日本大学国際関係学部 学生団体 KOMPIS

指導教員：助教 松浦康世

参加学生：牧慎太郎、米田実鈴、後藤佑、
岡田実凡、菅原未来

1. 要約

近年、地域ぐるみの子ども教育が重視され、学校、家庭及び地域が連携協力して行う学校支援地域本部事業等が各地で実施されている。このうちの“地域”の力として、居住する住民だけでなく、そこで日常的に活動している人々の存在が注目されている。その中でも、児童生徒にとって年齢が近く子どもたちが親近感を持ちやすい大学生の参画は大きく期待されている。

東京オリンピック等の開催も近づく中、小学校では外国語教育が行われ、社会教育の分野でもグローバルな視点を持つ人材の育成や国際文化や各国言語に関する教育支援活動が求められている。本研究では、国際関係を学び国際文化に関する活動を行う大学生が学校・家庭・地域連携協力推進事業に参画し、その実践結果を分析する。

2. 研究の目的

地域ぐるみの子ども教育に、地域の力の一つとして大学生が参画することの意義と可能性を検証し、持続可能な連携推進のための活動モデルを提案することが本研究の目的である。これまでの実践結果を考察することにより活動内容を見直し、新たな活動についてもアンケート調査を重ねるながら大学生、地域の児童生徒、家庭、学校及び地域の満足度の傾向を調べ、活動ごとに効果を検証するとともに解決すべき課題があるのかについて考察する。

3. 研究の内容

この研究は2種類の行事開催を活動の柱としている。1つ目の行事は、三島市教育委員会より依頼を受けて三島市内の小学校を訪問し、国際文化に関わる学びの場を提供する「放課後子ども教室」等の事業に参画することである。アンケート調査で得られた児童からの回答を分析して内省を繰り返すことにより、児童との関わり方や行事運営に関わる技能を身に付ける。更に、その活動の集大成として、三島市とその周辺に在住する児童を大学に招き、大学生が主体的に企画運営する「ちびっこ国際教室」を開催し、学校・家庭・地域連携協力推進事業への参画の成果を確認する。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

1. 大学生を対象としたワークショップ

事業参画に際して、まず大学生自身の目的意識を高める必要がある。学内においてワークショップを実施し、「大学生は児童生徒にとってどんな存在か」、「大学生との交流にはどんな教育効果が期待できるのか」、「大学生にとってどんなメリットが期待できるか」の3点について議論する機会を持った。その結果、「大学生は年齢が近く、お兄さん・お姉さんの魅力があり、親近感を持ちやすいのではないかと」、「大学生との交流には、人間関係の構築やグローバル人材の育成、国際文化や各国言語に関する教育に関して新たな教育効果が期待できるのではないかと」、「大学生にとっては社会参画の準備の機会となるだろう」といった仮説が立てられた。

2. 「放課後子ども教室」の計画と実施

次に、「放課後子ども教室」の実施計画を立てる上で、前年度の実践結果を分析し、反省点を整理した。三島市教育委員会と相談し、今年度中に「放課後子ども教室」を2回開催することとした。昨年同様、アンケート調査も続けながら国際文化教育を目的としたリクリエーションを計画する。

3. 「ちびっこ国際教室」の企画運営と活動モデルの提案

最後に、学内の海外生活を体験したメンバーが中心となり、三島市とその周辺に住む小学生を対象に世界各国の言語や文化を楽しみながら学ぶ行事を開催する。また、参加児童の父兄を対象としてアンケート調査を行い、「放課後子ども教室」事業への参画と「ちびっこ国際教室」開催の成果をアンケート調査結果をもとに分析し、時間帯、回数、内容、技法などに関して持続可能な連携推進のための活動モデルを提案する。

(2) 実際の内容

行事開催については全て計画通り進めることができた。分析については、行事開催後のスタッフ間の意見交換において行事内容や技能に焦点を当てた意見が多く出され、初めに実施したワークショップで得られた大学生自身の意識に関する仮説については議論されなかった。この点は、将来の研究課題として持ち越されることとなった。

(3) 実績・成果と課題

1. 昨年度（2017年度）「放課後子ども教室」アンケート調査結果の分析

対象・内容	1回目（H小学校1年～4年、計95人） 内容：「異文化を学ぼう」 ①アイスブレイキング（グループ作成） ②各国ブース訪問（15分×4） （アメリカ、中国、韓国、シンガポールの挨拶、風景、食べ物、衣服など）	2回目（Y小学校1年～5年、計68人） 内容：「外国語で遊ぼう」 ①アイスブレイキング（グループ作成） ②〇×クイズ ③ウルフゲーム （英語版だるまさんが転んだ）
内容について	とても楽しかった69 楽しかった10 あまり楽しくなかった2 楽しくなかった1	とても楽しかった52 楽しかった13 あまり楽しくなかった1 楽しくなかった2
次回	参加したい77 参加したくない5	参加したい67 参加したくない1
次回は何をしたいか	・外国語を使った会話や遊び 14 ・体を使ったゲーム 11（だるまさんが転んだ、じゃんけん大会、おにごっこ、ドッジボール） ・外国に関する学習やクイズ 5 ・外国人との交流 1 ・屋外でのリクリエーション 1 ・その他（人生ゲーム、海について、太陽系について、生物のこと（植物、動物）	・スポーツ74（ドッジボール34、サッカー10、キックベース6、野球4、リレー4、その他13種類） ・体を使ったゲーム56（おにごっこ系36、かくれんぼ系9、だるまさんが転んだ4、ハンカチ落とし2、宝探し2、その他3種） ・外国語を使ったゲーム2（じゃんけん等） ・その他（トランプ、ビンゴ、ドミノ、伝言ゲーム、読書、音楽、実験など11種）
感想	・楽しかった／とても楽しかった31 （韓国のクイズ、アメリカのゲーム） ・外国のことが学べた 13 ・色々なことが学べた 9 ・また来てほしい／またやりたい7 ・外国の人と交流できた 4 ・外国へ行きたくなった 3 ・外国の人に家に来てほしい 2 ・家族に教えてあげたい 2 ・他の国のことも勉強したい 1	・楽しかった／とても楽しかった50 （ウルフゲーム） ・また来てほしい／またやりたい20 ・大学生と交流できてよかった9 ・勉強になった（〇×クイズ）9 ・時間が短かった3 ・できてうれしかった2 ・クイズで当たらなくて悔しかった2 ・ウルフゲームで捕まりたかった1 ・次回はもっとがんばりたい1

<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく話してくれた 1 ・次回はもっとがんばりたい 1 ・もっと楽しいゲームをしたかった 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊びを学んだ 1 ・魅力的な会だった 1 ・ウルフゲームしか楽しくなかった 1
--	---

1 回目は各国の留学生たちにスライドで自国の写真を見せて文化紹介をしてもらった。クイズや言葉の練習が主な内容だった。各ブースでは体を動かすことが少なく、じっと話を聞く時間も多かったせいかアンケートで「楽しくなかった」と答えた児童が 5 名いた。そのため 2 回目は体を動かすゲームを取り入れるよう計画した。「楽しくなかった」と答えた児童が減り、感想には大学生との交流について触れる児童が多かったことから、児童の中に交じって一緒にできるゲームの効果を実証できた。

2. 今年度（2018 年度）「放課後子ども教室」アンケート調査結果の分析

	1 回目（K 小学校 1 年～2 年、計 90 名） 内容：「外国のことを知ろう」（60 分） ①〇×クイズ ②じゃんけん（英語、中国語、韓国語） ③じゃんけん列車	2 回目（M 小学校 2 年～6 年、計 59 人） 内容：「外国のことを知ろう」（40 分） ①アイスブレイキング（グループ分け） ②外国語のあいさつ、じゃんけん、歌 ③新聞紙を使ったボールリレー
内容について	とても楽しかった 66 楽しかった 22 あまり楽しくなかった 2 楽しくなかった 0	とても楽しかった 49 人 楽しかった 10 人 あまり楽しくなかった 0 楽しくなかった 0
次回	参加したい 82 参加したくない 8	参加したい 55 参加したくない 4
次回は何をしたいか	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を使った遊び 14（じゃんけん 5、あいさつ 4、じゃんけん列車 3） ・外国語の歌 3 ・体を使ったゲーム 3（かくれんぼ、ハンターゲーム、縄跳び） ・クイズ 4 ・ゲーム 3 ・その他（宝石について、お絵描き） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を使ったゲーム／スポーツ 88（ドッジボール 38、おにごっこ系 28、なわとび 5、だるまさんが転んだ 5、リレー 4、サッカー 3、ジェスチャーゲームなど 10 種） ・外国の遊び 6 ・外国語を使った遊び 2（貨物列車ゲーム） ・その他（ゲーム大会 4、的あて 2、新聞紙を使ったゲーム、歌、勉強など 14 種）
感想	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった／とても楽しかった 45（〇×クイズ 13、ジャンケン列車 11、自己紹介） ・また来てほしい／また参加したい 12 ・外国語が楽しく学べた 8 ・外国について学べた 6 ・大学生がとても楽しかった 2 ・いろいろ学べた 1 ・外国人と交流できた 1 ・家の人に教えたい 1 ・友達が 1 位になって嬉しかった 1 ・あまり楽しくなかった 1 ・少しうるさかった 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった／とても楽しかった 22 ・外国語が楽しく学べた 12 ・また来てほしい／また参加したい 10 ・知らない人と友達になれた 10 ・大学生が楽しかった 4 ・サンさん（韓国人）がかわいかった 4 ・大学生と遊べた 3 ・外国人と遊べた 3 ・時間が短かった 3 ・外国について学べた 2 ・楽しみにしていた 2 ・家族や友達に教えたい 1

1 回目は PPT を使ったクイズと遊びの要素が強いじゃんけん列車をした。感想では「楽しかった」と答えた児童が多かったが、低学年であったこともありクイズを退屈と感じる児童もいたようだった。その結果をふまえて 2 回目は体を動かす活動を中心に計画した。その結果、全員が「楽しかった」と答えていた。また、大学生との触れ合いに関する感想も多く出された。

3. 「放課後子ども教室」の成果

以上4回の教室運営とアンケート結果より事業の成果を次の通り整理する。

- ・「次回は何をしたいか」には、その日に行った活動の内容が反映されている。今年度1回目は学習的要素が強く、児童からのリクエストには「外国語を使った遊び」が最も多かった。それに対し2回目に遊びの要素を多く取り入れると、リクエストにも外国語の枠を超えて様々な活動名が出された。例えば新聞紙を使ったゲームをしたところ、新聞紙を用いた別のゲームを思いついた児童が複数いた。活動に様々な要素を含めることにより、想像力を刺激して自由な発想を引き出すことができる。
- ・時間設定としては60分よりも40分の方が満足度が高かった。一方、40分設定では「時間が短かった」と書いた児童が3名いたため、いずれの時間設定の場合も、特に低学年の集中力持続の程度を考慮して、活動ごとの時間を短くし、体を動かす活動を多く取り入れるなど工夫すべきである。
- ・大学生と一緒にやるゲーム等は、楽しめるだけでなく学習効果についても満足度が高かった。児童にとって大学生とのふれあいは「また来てほしい」や「家に来てほしい」などの交流への関心につながる。一方、スライドなどによる文化紹介も「外国に行きたくなった」「外国について学びたい」など異文化に対する興味を引き出しているため、両方をバランスよく取り入れるのが効果的である。
- ・児童の感想の中には、「知らない人と友達になれた」や「他のクラスの人と仲良くなれた」などのように児童同士の関係についてもコメントされていた。チームで協働するゲームや他の友達と交流のできるゲームを取り入れるなど、児童の視点で交流の方向性も意識して行事を計画すべきである。

4. 「ちびっこ国際教室」の開催

以上の点を考慮しながら、活動の集大成として「ちびっこ国際教室」を開催した。当日は小学生68名とその父兄が参加し、46名のスタッフが運営にあたった。「世界の祭り」をテーマに、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカという地域ごとに特徴的な祭りを紹介し、小学生に体験してもらった。

(4) 今後の改善点や対策

「ちびっこ国際教室」実施した父兄に対するアンケート調査では、概ね良い評価が得られたが、「一昨年より英語や各国語を話す機会が減った」「もう少し掘り下げた文化説明が欲しかった」「低学年向けのブースが多かった」という意見も出されたため、今回低学年への配慮に終始したことが逆の評価につながったことを反省して、今後は全ての学年の児童が満足できる活動を考えていきたい。また、「教えたことを書いたものを配布してほしい」という意見もあり、配布物や教材についても検討する必要がある。

5. 地域への提言

学校・家庭・地域連携協力推進事業として、地域ぐるみの子どもの教育に参画する機会を得た。大学生の参画は児童に対して学習面でも精神面でも良い刺激を与えることができる。また、大学生にとっても行政や学校と連携する中で社会の要請や行事運営のノウハウを学ぶ機会が得られ、自主的に行事を開催するまでに至る責任感やリーダーシップを養うことができる。事業の実施に際しては時間的な負担があるもののそれ以上の大きな成果が得られるため、今後も行政や学校は大学生に対して諸事業への積極的な参画を促し、持続可能な活動のための連携体制を構築できるよう継続的な声掛けをお願いしたい。

6. 地域からの評価

三島市生涯学習課の専門員の方々から常に連携を取り合う環境を与えていただいたため、不安もなく活動を進めることができた。連携体制作りには、このような積極的な声掛けの積み重ねによる信頼関係の構築が必要であることを学んだ。

「ちびっこ国際教室」のアンケート調査では、父兄からの回答に「楽しかった」「外国の方の言葉が聞けた」「説明がわかりやすかった」などの意見が多かったことから、概ね良い評価が得られたと考える。また、行事開催の意義についても「様々な文化に興味を持つきっかけとなる」「大学生や外国人に親しみが持てる」「子どもにとって良い見本となる」などの感想を得ることができた。